

水稲の収穫期が近づいています



七城中央支所営農課
山内 隆生

高温障害対策とトビロウンカの発生に注意しましょう

今年も全国各地で記録的な猛暑に見舞われ、管内でも梅雨明け(7月25日)以降、猛暑日が長く続きました。また、雨が少なく、台風の接近によるフェーン現象で稲の体力低下が懸念されますので適切な間断灌水を行い、作物の活力維持に努めましょう。

また、登熟初期(出穂日から20日間程度)の平均気温が26℃を超えると稲に高温障害(玄米が白くなる)が発生し品質が低下しますので、通水が可能な圃場は「かけ流し」を実施し、適切な間断灌水により高温障害対策に心がけ安心・安全なお米を届けましょう。

「病害虫の発生」については、7月4日以降、トビロウンカのまとまった飛来こそ少なかったですが、収穫前に坪枯れを引き起こすことが考えられますので適期防除に努めましょう。

「いもち病」については、平年並みですが今後の天候と圃場の状態を観察し、発生が確認される場合は薬剤散布を行いましょ。

なお、臨機的な防除を行う際は、使用される農薬の残効期間に注意してください。ご不明な点がございましたら、資材店舗または普通作指導担当者におたずねください。



その1 ▶ 産米改善目標

玄米水分…15% 玄米水分 15%
整粒歩合…80%以上 乾燥しすぎた玄米は食味が悪くなるので注意しましょう
入れ目……一俵当たり60kg
正味1kgプラス
たんぱく質含量…6.4%以下

その3 ▶ 適期刈り取り

一穂の中で **青もみが15%**程度残っている時が刈り取り適期です。適期を過ぎると茶米・胴割れ米が増え、品質が低下します。



適期刈り取りの稲穂

その2 ▶ 落水期の延長

落水は **収穫前 5~7日** を目安とします。落水が早すぎると根の活力が落ち、収穫品質も低下します。

1週間以内に収穫!

その4 ▶ 乾燥調整

収穫した生もみは **2時間以内に** 乾燥機に入れてください。

乾燥温度
静置式 35℃以下
循環式 40℃以下

急激な乾燥は品質及び食味が低下しますので、注意しましょう。

台風時の水管理 次のことに気をつけましょう。

- ①事前対策として強風による水分ストレス等を避けるため、やや深めに湛水する。
 - ②事後対策として冠水した本田は極力排水に努め、水の入替えを行う。
 - ③強風後のイネは水分の吸収が盛んになるのでやや深水とし徐々に浅くし、回復を待つて通常の水管理にもどす。
- ④田んぼの見回りは、台風などで危険な状態が予想される場合は絶対に行わないでください。雨や風がおさまってから、十分に気を付けて行いましょう。